
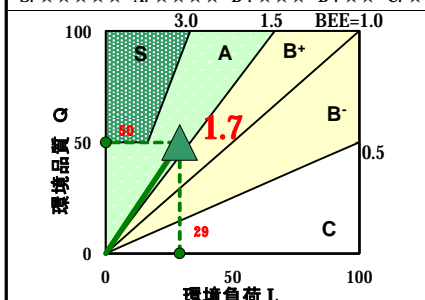
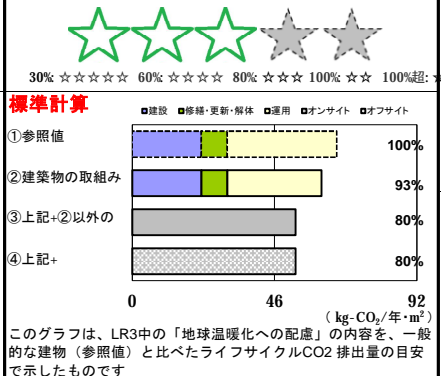


1-1 建物概要				1-2 外観
建物名称	関西創価高等学校 寄宿舎整備計画	階数	地上3F、地下0F	
建設地	大阪府交野市東倉治	構造	SRC造	
用途地域	第一種中高層住居専用地域	平均居住人員	122 人	
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)	
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2027年7月 予定	評価の実施日	2025年10月15日	
敷地面積	2,988 m ²	作成者	株式会社創造社 山本英之	
建築面積	1,635 m ²	確認日	2025年10月15日	
延床面積	4,375 m ²	確認者	株式会社創造社 八木大地	

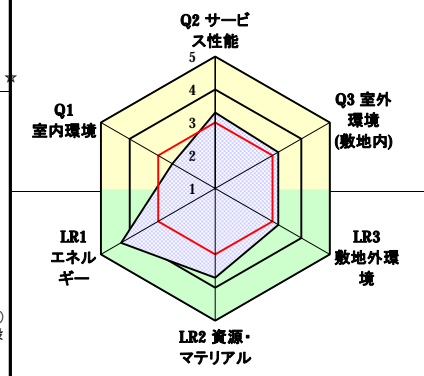
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.7 ★★★★★★☆☆☆☆

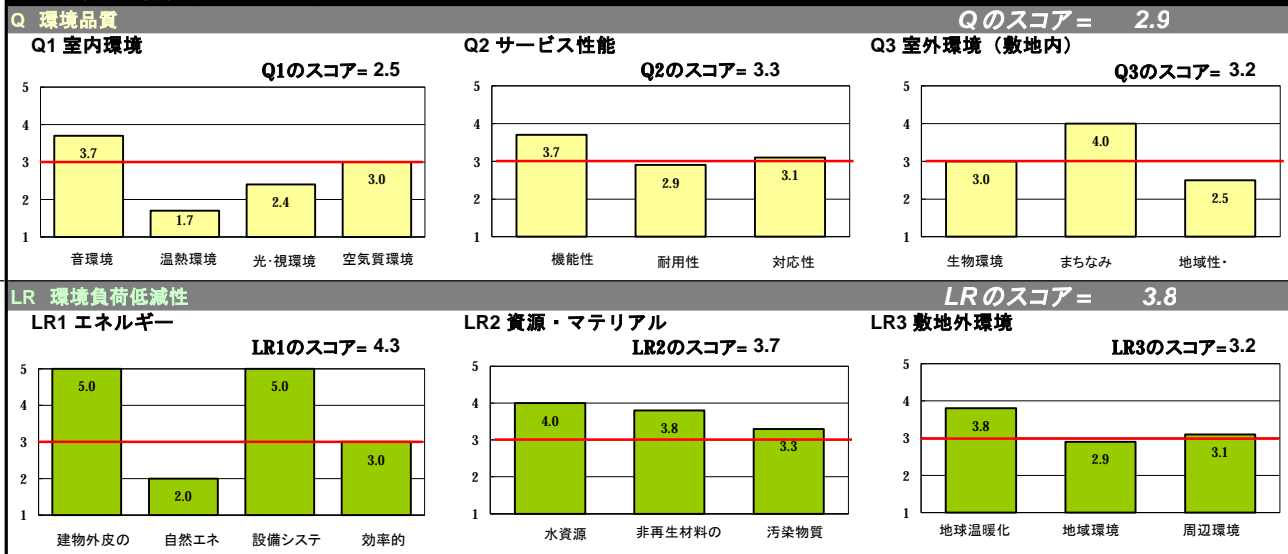
S: ★★★★★★ A: ★★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



2-4 中項目の評価(バーチャート)



3 設計上の配慮事項

総合		その他
ZEH-M Orientedを取得し、省エネルギー性の高い快適な室内環境を整えられるよう努めた。		特になし。
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
開口部の遮音性を高め、屋内の音環境に配慮している。	Gbitクラスのブロードバンドが利用可能な環境を整備している。	植栽による修景、良好な景観形成へ配慮した取り組みを行っている。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
高効率給湯器、LED照明設備等を採用することで省エネルギーに配慮している。	節水器具を積極的に採用し、水資源の保護に配慮している。	ライフサイクルCO ₂ 排出率を参照値より抑制し、地球温暖化への配慮をしている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】 建物名称		関西創価高等学校 寄宿舎整備計画							
建設地		大阪府交野市東倉治							
用途／区分		集合住宅							
【評価結果】	CASBEE 総合評価						A		
①	CO2削減						4		
②	みどり・ヒート アイランド対策						3		
③	断熱性能							5	
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分						5	
④	エネルギー消費性能							5	
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分 非住宅建築物又は 複合建築物の非住宅部分	 評価対象外					2 評価対象外	
⑤	自然エネルギー直接利用							—	
再生可能エネルギー 利用施設の導入状況		太陽光発電	○	風力	—	地熱	—	—	
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—	—	

エネルギー消費量の報告							対象外
-------------	--	--	--	--	--	--	-----

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE LR3 敷地外環境 1. 地球温暖化への配慮	3.8	4
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 1. 生物環境の保全と創出	3.0	3
敷地内温熱環境の向上	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 3. 2 敷地内温熱環境の向上	3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE LR3 敷地外環境 2. 2 温熱環境悪化の改善	3.0	
③ 断熱性能	CASBEE LR1 エネルギー 1. 建物外皮の熱負荷抑制	5.0	5
④ エネルギー消費性能	CASBEE LR1 エネルギー 3. 設備システムの効率化	5.0	5
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE LR1 エネルギー 2. 自然エネルギー利用	2.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	—

その他		
先進的技術の導入	技術の名称	考慮事項
特に配慮した事項		